

薬の飲ませ方の工夫

日頃、薬を飲んでいて、錠剤やカプセル剤が飲みにくかったり、粉薬を飲む時にむせてしまったりすることはありませんか？そんな時に、錠剤やカプセル剤を、そのままお湯に入れ溶かして飲む「簡易懸濁法」という方法があります。



簡易懸濁法

- 55℃の温湯を用意します。ポットのお湯と水を2対1の割合で混ぜると55℃の温湯になります。
- カップに薬と55℃の温湯20mlをいれます。
- 10分放置して溶けた薬を服用します。



- 溶けにくい場合は、薬の表面を軽くたたいて傷を入れると溶けやすくなります。
- この方法では効果が落ちたりして使えない薬もあるので、かかりつけの薬局でご相談下さい。

原水禁世界大会に参加して

先日、初めて原水禁世界大会(長崎)に参加してきました。その大会の中で、「核兵器がこの世界に存在する限り、私たちは潜在的にヒバクシャである」という言葉が印象に残っています。その言葉を聞いて、核兵器廃絶の問題、世界平和の実現の問題は、戦争で被害を受けた人々だけの問題ではなく、現在を生き、未来を紡いでいこうとする私たちみんなの問題であるということに改めて感じることができました。私たちみんなの力で、核兵器のない平和な世界を創っていきましょう。

ひまわり薬局 事務/本高勝久



■開局時間

曜日	時間
月・水・金	午前9時～午後7時30分
火・木	午前9時～午後5時30分
土	午前9時～午後1時00分



■発行所/ひまわり薬局
〒862-0954 熊本市神水1丁目20-7
TEL096(387)2101 FAX096(387)5399
■発行責任者/鳴海 真弓

ひまわり薬局だより

秋号

2008.No.57



もりもりもりあがる雲へ歩む

昨年、連れ合いが北海道釧路から水俣病の講演に呼ばれました。これ幸いとノコノコついていったら、最大の誤算はこの人は飛行機に乗れないこと。陸路北海道まで寝台列車と新幹線で鉄道の旅を十分すぎるほど楽しみました。

薬局で陸路北海道へという話をしたら、「事務長、車でいかれるんですか？」の質問。『バカなこと言うんじゃないよ…』と、内心思ったのですが、そのバカをやった人たちがいます。北海道で開かれた洞爺湖サミットに向けて、水俣病キャラバンの宣伝カーが水俣から札幌まで駆け抜けました。救済を求めつづける患者さんたちの命がけの行動でした。

近畿で水俣病裁判が起こされようとしています。水俣現地から職員が手分けして患者さんを訪ね歩きます。たった一本の九州なまりの電話の声だけを頼りに待つ人のもとへ、歩く、歩く。駅の階段を、田んぼのあぜ道を。電車やバス、モノレールを乗り継いで、見知らぬ土地を歩き回りました。それだけに、ドアチャイムが鳴ったときの患者さんたちの驚きようは、ドキュメンタリー映画の一場面のようなものでした。

日ごろ、薬剤師も薬局で処方せんを待つだけでなく、訪問服薬指導で地域を駆け回っています。待つ人のもとへ、きょうも歩く。

(水俣さくら薬局/事務長・山近 茂)